



Japanese Society of Root and Tuber Crops
日本いも類研究会

October 1998 No. 17

(本部事務局) (財)日本特産農作物種苗協会内 107-0052 港区赤坂 2-4-1
(つくば事務所) 農業情報利用研究会内 JRTつくば事務所
〒305-0033 茨城県つくば市東新井 26-4-603
TEL 0298-56-0236 FAX 0298-56-0024
<http://www.jsai.or.jp/~jrt/>
jrt@jsai.or.jp

イベント開催のお知らせ

11月6日 青木昆陽生誕300年祭『さつまいもフェスタ' in めぐる』

講演	展示会(青木昆陽関係資料)
<p>【日時】11月6日(金) 12:00~17:00 【会場】目黒区民センターホール (目黒区目黒2丁目4番) 【内容】シンポジウムテーマ 「さつまいもの新用途開発について」 さつまいもの渡来、普及、食糧難での貢献等歴史を学ぶ他、さつまいもの機能性食品としての評価を学び消費拡大を図る内容</p>	<p>【日時】11月6日(金)~8日(日) 【会場】目黒区中小企業センター会議室 (目黒区目黒2丁目4番) 【内容】 さつまいも加工食品、新品種のパネル等 主催:「青木昆陽生誕300年祭『さつまいもフェスタ' in めぐる』実行委員会</p>

11月7日 馬鈴しょ新品種の講演会及び試食会

<p>【日時】11月7日(土) 13:00~17:00 【会場】飯田橋レイナービル1F 特別C会議室レストラン「耕」 主催:JA全農 新宿区市ヶ谷船河原11(JR飯田橋駅下車徒歩5分) 【内容】講演:「新たな馬鈴しょ品種の育成について」 (北海道農業試験場ばれいしょ育種研究室長 森元幸氏) パネルディスカッション:実需者の求める馬鈴しょについて 試食会:新品種の料理紹介(さやか等最近注目の新品種紹介)</p>
--

いも類Q&A



電子メールでJRTに寄せられた質問とその答えから

Q 先日、大分県に遊びに行ったとき、「といも」という芋が売られていました。ものすごく、大きな芋だったのですごく気に入っています。「といも」とは、どのようないもなのですか?

A 「といも」は大分県あたりでのサツマイモの呼び名です。鹿児島ではカライモと呼んでいます。この他、リュウキュウイモなどと呼ぶこともあります。

11月7日 さつまいも商品シンポジウム

【日時】11月7日 10:30～15:30

【会場】サイボクハム本社2階講堂

埼玉県日高市下大谷沢 546 [TEL]0429-85-0869

【内容】下記の講演会の他に各種の「おいも商品試食会」が行われます。

1 (うまいも情報) 栄町のイモづくりパワー

講師：高木昭一 JA香取西部甘藷部長

2 (最新情報) 紫いもパワーを語る

講師：津久井亜紀夫 東京家政学院短大教授

3 (ユニーク食べ方情報) 健康サツマイモ食

講師：原 京子 えぶろん亭店主(郷土料理研究家)

【主催】川越サツマイモ商品振興会と川越いも友の会

この他、シンポジウムをはさんだ11月3日(火)～8日(日)には、同社ミートピアハウスで「千葉県大栄町 焼芋&農業まつり」が開催されます。

11月21日(土)～23日(月・祝) 日本一のいも掘り広場

【会場】千葉県大栄町松子 366 番地

【内容】大栄町は全国でもトップクラスの品質・生産を誇るおいしい「さつまいも」の産地です。この3日間は「いも掘り」の一般開放日で、以下のイベントと併せて開催されます。料金は5kg箱で500円(詰め込み自由)。

21日：青空マーケット

22日：ふるさとふれあいまつり

【主催】日本一のいも掘り広場実行委員会

問合せ先：大栄町役場農政課 [TEL]0478-73-8064

なお、上記の一般開放日以外にも、11月中旬まで同じ料金で団体(20人以上)での参加を受け付けています。

注：1)電話での予約が必要です。

2)幼稚園・小学校・養護学校等の団体は無料

《最近開催されたイベント》

9月30日 サツマイモの女王「紅赤」発見100年を祝う会

サツマイモの女王と呼ばれる「紅赤」が発見されて100年になるのを記念して発見者の子孫や関係者が集まり、功績案内板が設置されました。場所は、発見者の山田いちさんと普及に努めた吉岡三喜蔵氏の墓がある廓信寺の門前で、発見のいきさつや普及の状況などが記されています。

10月13日 川越いもの日まつり「いも供養」

さつまいもの町、川越では10月10日～16日までを「おいもパワー週間」としています。13日の「さつまいもの日」には、第4回の「いもの日まつり(いも供養)」が行われ、イモ奉納、イモ供養に続いて千葉県農業試験場の猪野さんから、紅赤づくりの篤農の特徴についてイモ法話が行われました。

組み換え体じゃがいもの商品化評価

近畿大学生物理工学研究室 渡邊和男

組み換え体じゃがいもの商品化評価は東ヨーロッパ、メキシコ、中国等技術中進国でも進んでいます。日本への輸入は現在USAからだけですが、ペルーやボリビアでもこのような圃場評価は進んでいます。若干ながらもこれらの国からのじゃがいも加工食品の輸入があり、今後、国産以外の輸入じゃがいもの中に占める組み換え体由来材料の比率は徐々にですが高くなるものと思われます。作物一般では安全性評価のための圃場試験の検討を行う国際シンポジウムが隔年で行われ、前回は日本、今年は今月ドイツで行われます。このシンポジウムの速報は、農水省技術会議の先端産業技術研究課で得られます。

これらの圃場評価ガイドラインは多くの国の場合、UNEP（国連環境計画）をもとに各国で独自に改編され、評価が行われています。これらの組み換え体およびその産物の輸出入に関しては関連国の組織のみならず、WTO および生物多様性条約等がかかわってきています。これら国際条約によって組み換え体商品の流通のための情報提供が各国において義務化促進され、そしてそれら評価基準が国際スタンダード化されつつあります。いまのところ条約の議定書は作成交渉中で確立していませんが、近い将来これが承認され発効する見込みです。これによって、いま消費者から投げ掛けられている疑問がかなり明解になるのではないかと考えられます。

参考 <http://www.iisd.ca/linkages/biodiv/bswg5.html>

カムチャッカのジャガイモ（前編）

日本いも類研究会 会長 梅村芳樹

1998年8月15～28日の調査報告

カムチャッカ研究会の依頼を受け、主としてジャガイモの生産・利用状況の視察、現地で依頼があれば指導もする目的で実質6日間、農場などを訪問した。場所は州都ペトロパブロフスク周辺、40kmほど内陸に入ったミルコボ、中心部に近いカムチャッカ川流域のエッソである。

気候

緯度はウクライナと同じであるが、低温で夏は短く、6月から9月が耕作期間、5～9月の積算温度は1500で十勝より1000ほど少ない。降雨量は海洋性モンスーン気候のため、1000～1500mm、北海道より多いくらいである。地形が複雑で高山が多く、気候は変異が大きい。たとえば到着した8月16日、ペトロパブロフスク近くの火山（3456mのコリヤーク、2741mのアバチャ山）は新雪で上部三分の一が冠雪、4日ほどで溶けたし、標高600mのエッソ村のジャガイモは早霜の被害を受けていた。

土壌

訪問した3カ所の農場は火山性の砂壤土、淡褐色で粘りが無く扱いやすい土である。畑がすべて平坦地、湿害の見られる所もあり、やや多湿と思われる。6日間車で走った1300kmの道路沿いでガリーが全く見られなかったのは大雨が降らないのか、土が重いのか。日本の農山村では考えられない風景であった。生育中の作物、野草の生育は良好、強酸性や微量元素の欠乏症は無いようであった。

需要、消費の状況

16日に入ったスーパーマーケットでは新ジャガを8ルーブル/kg（約160円）、パズールでは6ルーブル（約120円）で売っていた。貯蔵イモは半値以下である。旅行中宿で3食出てくるジャガイモはすべて貯蔵イモであった。道路沿いで売っている産直のイモはもちろん新ジャガ、ダーチャ（自給農園）でごく一部収穫が始まっていたので8月が新、旧の境と思われる。資料ではジャガイモの州の自給率は70%とあるが、農場での聞き取りでは生産の全量販売は難しく、売れ残りが出るとのこと。ソビエト時代は軍隊向けの需要が大きく、増産が奨励されていたが、崩壊後は販路を探すのが大変で生産量は半減しているという。この販売不振は大半の市民がダーチャを持ち、ダーチャはジャガイモが主でキャベツ、ピーズ、ニンジンなどが少々と言う作付け競合、家庭での自給率が極めて高いためである。（後編に続く）